

一般質問

■不登校対策について
教育現場での取り組みは？

質

七尾市、学校、フリースクール等の民間団体、子育てや教育に関わる方々が互いに協力していくことで、子どもが安心して学び育つ環境が整った七尾市にしていきたいと考えている。そこで、次の2点について伺う。

- ①令和2年度と令和3年度の不登校児童数と傾向について
- ②不登校児童に対する教育現場での取り組みについて

答

①不登校児童数は、令和2年度は、小学校が20名、中学校が54名。令和3年度は10月末現在で、小学校19名、中学校42名で、小中学校ともに増加傾向にある。

②未然防止の対応として、魅力ある学校づくりを推進し、児童生徒の居場所づくり、絆づくりに取り組みとともに早期発見・早期対応のため、休みはじめの段階から保護者と連絡を密にし対応を進めている。

全小中学校にスクールカウンセラーを派遣し、組織的かつ専門チームを活用して相談体制の充実を図り、さらに七尾市教育相談センターわかたけでの電話相談や中学生を対象とした通室指導なども実施している。



木戸 奈諸美 議員 (あすなろ)



学校の教室

●令和3年10月末現在の不登校児童数

小学校	19名 (7名増)
中学校	42名 (8名増)

増加傾向

- ・魅力ある学校づくり
- ・スクールカウンセラーの派遣
- ・七尾市教育支援センターわかたけ etc.

※()内は、令和2年10月末現在との比較

一般質問



瀬戸 三代 議員 (あすなろ)



■MaaS(マース)次世代移動サービスの研究、導入について
取り組みの現状は？

質

運転免許証を返納すると移動難民になる。さらに、買い物難民になる。また、ひとり暮らしの孤独感にさいなまれる。

観光客からは、のどじま水族館に行ったら、そこから奥能登へは行けない。不便さを痛感するとの苦情が聞かれる。

住民のため、七尾市を訪れる方のため、MaaSと一緒に考えていただきたいが、取組んでいる現状を伺う。

答

現在、七尾市において独自にMaaSについて研究していないが、一般社団法人能登半島広域観光協会が、昨年度、能登MaaS研究会を組織し、勉強会を開催した。七尾市も参画している。

今年度は、2月に勉強会を開催する。七尾市も、そういった機会に参加し、今後役立てていけるように研究していきたい。

MaaS(マース: Mobility as a Service)

地域住民や旅行者の一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせ検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性の向上や地域の課題解決に資する手段となるもの。

一般質問

■七尾港の振興について
七尾港振興にかける思いは？

質

七尾港は天然の良港として古くから交通や産業の要所として七尾市とともに発展を遂げてきた。令和3年4月から茶谷市長が七尾港整備・振興促進協議会会長を務めているが、実のある協議会として発展することを願う。

夢を描き、その夢を実現するという強い信念を持って地元企業等とスクラムを組み臨めば、必ずやその思いは達成すると思う。会長として七尾港振興にかける思いを伺う。

答

七尾港の主要貨物は木材・石炭だが、取扱い量は減少傾向にあり、取り巻く環境は非常に厳しい。

そのような中、石川県関係部署と市の担当部署からなる七尾港を考える勉強会を立ち上げ七尾港の利活用を模索しており、この議論の結果も参考にしながら、あらゆる可能性を否定せずに検討を行い、七尾港の活性化につなげていきたい。

また、地元経済界との連携やマリノレジャー等関係協力団体の協力を得ながら、クルーズ船の寄港や新たな貨物の確保、七尾港の整備促進など、しっかりとトップセールスを行い展開していきたい。

現在の七尾港に関する要望事項

- 大田地区国際物流ターミナルにおける航路の水深13mの早期実現
- 矢田新地区における緑地整備事業の支援



永崎 陽 議員 (新政会)



七尾港